

# レポート書式見本

※この資料の考え方は、アカデミックライティングに基づいています。アカデミックライティングに基づくレポート書式を提示するためには、具体例が必要です。ここでは、井下千以子(2022)『思考を鍛えるレポート・論文作成法』(第3版)慶應義塾大学出版会をもとに説明しています。この「レポート書式見本」に固執する必要はないものの、レポート書式を知るための一例として参考にしてください。もしわからないことがあれば、どんな些細なことでもかまいませんので、お気軽にライティングサポートセンターを訪ねてください。スタッフがわかりやすく説明します。

\*\*\*

## 【内容】

### 1. レポート書式の注意事項

- ① 講義名・担当教員名・提出日・学籍番号・氏名
- ② 用紙サイズ・行数・文字数
- ③ タイトル
- ④ ページ番号
- ⑤ 引用
- ⑥ 図表
- ⑦ 注
- ⑧ 参考文献
- ⑨ 留意点

### 2. レポート書式見本

「静岡県三島市の環境に対する住民意識と水マイバ  
グ運動の起点ー」

\*\*\*

# レポート書式の注意事項

- ◆以下は書式についての一般的なルールです。担当教員から指示がなかった場合の参考にしてください。
- ◆不明な点については、ライティングサポートセンターにてアドバイスします。

## ① 講義名・担当教員名・提出日・学籍番号・氏名

学籍番号と氏名は忘れずに記入する。講義名・担当教員名・提出日を記入すればより丁寧になる。

## ② 用紙サイズ・行数・文字数

パソコンの基本設定値(A4用紙・36文字×40行)をそのまま使用する。



## ③ タイトル

レポートはタイトルを付けることで内容がより伝わりやすくなる。自分のレポートを一言で表現したものや、キーワードとなる言葉をタイトルにしよう。タイトルの文字の大きさは、本文より少し大きめのフォント(12p程度)が適当。

## ④ ページ番号

ページが複数にわたる場合はページ番号をページ下につける。ホッチキス等で留めることも忘れずに。

## ⑤ 引用

### 1) 短い文章(1~2行)の引用

引用箇所を「 」で囲み、出典を明記する。

短い引用の出典は、著者名(出版年)を記す。本の場合は、ページ数まで入れることが多い。

**書き方の基本** → 著者(出版年)によると、「一引用一」としている。

→ 「一引用一」とされている(著者名、出版年、ページ数)。

**【例】**レポート見本(後掲)から \*レポート見本のこの箇所だけでなく、ほかの部分にも目を向けてみよう。

北川・石川(1964)は、1958年の東レ誘致以降、東レを始めとする周囲の工場が地下水から大量の工業用水を取水したことにより、市街地を流れる源兵衛川が渇水し、水不足の事態に陥ったとしている。

### 2) 長い文章(3行以上)の引用

「 」を用いず、引用箇所の上下1行あけて文頭を2文字下げ、出典を明記する。出典の書き方は短い文章の引用と同じ。引用前には何を引用するのか、引用後には引用した意味を説明しておく。

**【例】**レポート見本(後掲)から

この石油コンビナート計画の阻止と環境のかかわりについて、小林(2003、p128)は次のように述べている。

石油コンビナート進出阻止の運動は、生活権を訴えた文化運動であり、三島の基底に流れる文化性とは、水辺環境で育まれた生活文化である。その文化性が、企業進出にともなう水の渇水、四日市視察で直面した公害のリアリズムに誘発され、独自のな高まりを見せたのだと考えられる。

この指摘は、このときのみ当てはまるものではない。このような市民運動の積み重ねが三島市民の環境に対する意識を形成していったのである。

上記は、直接引用(原文ままの引用)のやり方です。

間接引用(要約引用)の場合、出典には参考にしたページの範囲を記載します。引用元のキーワードや重要なフレーズは、なるべく「」で盛り込むようにしましょう。

## ⑥ 図表

図表を使う時は、図表番号（図1、表1）と題名をつけて出典を明記する。

## ⑦ 注

注は文末に配置し、次のような場合に設ける。2)と3)では必要に応じて出典も含めて記しておく。

- 1) 前後の文章のつながりからすると、その文を挿入することで脈絡がおかしくなってしまう。しかし、レポートの内容からすれば、触れておきたいと考えた場合
- 2) 本文中で、専門用語を用いたり、特殊な言葉の用い方をしたりしており、そのことを説明しておかなければならないという場合
- 3) 引用の出所（出典）を示しておかなければならないと考えた場合

## ⑧ 引用文献

レポート末尾に引用文献として50音順に一覧にする。また、引用した文献のほかにも、引用はしていないものの、実際に読んで参考にした文献を参考文献として示す場合もあるので、提出先に確認しよう。ここでは、引用文献のみを記す。

引用文献の書き方として、おもに以下の1)～4)の場合がある。



### 1) 単行本の場合

著者（発行年）『書名』発行所。 \*編者となっている場合は、著者の代わりとする。

【例】1人の著者 → 飯島伸子（2000）『環境問題の社会史』有斐閣。

2人の著者 → 清家篤・山田篤裕（2004）『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社。

3人以上の場合 → 井原あや他（2018）『「私」から考える文学史 私小説という視座』勉誠出版。

編著の場合 → 日本近代文学会関西支部編集委員会編（2018）『〈異〉なる関西』田畑書店。

### 2) 共編著に収録された論文の場合

著者名（発行年）「論文のタイトル」共編著者名（発行年）『書名』出版社名、文の初ページ - 終ページ。

【例】島村健司（2018）「ロケーションへのまなざし——神戸1920年代文学の背景・前衛芸術と郷土芸術の交差点」  
日本近代文学会関西支部編集委員会編（2018）『〈異〉なる関西』田畑書店、pp. 254-275。

### 3) 雑誌論文の場合

著者名（発行年）「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号)，論文の初ページ - 終ページ。

【例】塩原勉（1980）「組織研究と社会学」『組織科学』14(1), pp. 10-19。

### 4) インターネットの場合

作成者（掲載年）「タイトル」（URL）（閲覧日）。

【例】イオン（2015）「買物袋持参運動」（<https://www.aeon.info/environment/environment/mybag.html>）（2016年3月23日閲覧）。



### 5) 新聞記事の場合

新聞紙名（発行年）月日付朝刊夕刊「記事のタイトル」。

【例】読売新聞（1964）6月28日朝刊「三島進出を断念 富士石油、市に申し入れ」。



ここで説明した書き方は、絶対のものではありません。アカデミックに決められた書式はほかにもあります。とりわけ留意してほしい点は上記⑤⑥⑦⑧です。これらはほかの書き方も多様にあるので、先生に尋ねてみるのが大切です。

講義名  
担当教員名

学籍番号：○○○○○

氏名：○○○○○○

## 静岡県三島市の環境に対する住民意識と水 —マイバッグ運動の起点—

### 序 論

環境問題の様々な取り組みの中に、マイバッグ運動がある。日本全国でショッピングモールを展開するイオンの報告によると、2014年のレジ袋辞退率は67.5%であった(イオン、2015)。静岡県三島市では、市が「マイバッグ推進運動」を展開しており、2009年以降レジ袋の辞退率は80%を超えている(三島市、2015)。三島市のレジ袋辞退率が高いのは、三島市において「マイバッグ推進運動」が成功している結果であろう。何が成功の要因となっているのだろうか。本レポートは、三島市の「マイバッグ推進運動」を支える起点の一つとして、この地域の住民意識と水とのかかわりを明らかにする。

### 本論①： 情報整理

「水の都」ともいわれた三島市は、酒造、米屋、豆腐屋、製紙業などのきれいな水を必要とする産業が盛んで、富士山からの大量の湧水が三島の人々の産業や生活を支えていたという(三島市、2006)。北川・石川(1964、p.65)は、1958年の東レ誘致以降、東レを始めとする周囲の工場が地下水から大量の工業用水を取水したことにより、市街地を流れる源兵衛川が渇水し、水不足の事態に陥ったとしている。「三島市民はこれを『公害』として受け取り、市民運動に結集していった」と述べている。さらに1964年には、大規模な石油コンビナートの建設計画がもちあがった。しかし、市民運動によって中止になっている。読売新聞(1964)によると、計画の中核であった「富士石油が三島進出を断念したのは、地元民のコンビナート反対運動が根づいたため」であった。この石油コンビナート建設阻止は、「高度経済成長期をもろ手を挙げて歓迎していた雰囲気を引き締めるためには、一定の効果を示した[中略]1960年代におけるそうした環境運動の代表例」と位置づけられる(飯島、2000、p.151) 1)。

### 本論②： 考 察

以上のような三島市の地域性から、三島の住民の環境意識の背景にあるものを考察する。三島には古くから次のような言葉が残されている。「三尺(1m)下れば真水になる」(三島市、2006)。これは、たとえ家庭の汚水を川に流しても1mも下れば、きれいな水になるということの意味する。しかし、この考えが工場の取水による湧水の減少で一変する。この時の住民の危機感、日常生活と密接に関わるだけに、より切実なものであった。だからこそ市民運動に結集したといえる。このときの経験がのちの石油コンビナートの建設計画阻止の市民運動にもつながっていったのである。そして、石油コンビナート計画の阻止は高度経済成長期における地域開発のあり方を見つめ直す一視点を提示したといえる。石油コンビナートがもたらす経済的な潤いよりも環境保全を優先したものであった。この石油コンビナート計画の阻止と環境のかかわりについて、小林(2003、p128)は次のように述べている。

石油コンビナート進出阻止の運動は、生活権を訴えた文化運動であり、三島の基底に流れる文化性とは、水辺環境で育まれた生活文化である。その文化性が、企業進出にもなう水の渇水、四日市視察で直面した公害のリアリズムに誘発され、独自のな高まりを見せたのだと考えられる。

三島市には「水辺環境で育まれた生活文化」が基底にあり、それが「石油コンビナート進出阻止の運動」につながった。この指摘はこのときのみ当てはまるものではない。このような市民運動が三島市民の環境に対する意識を形成していったのである。「環境先進都市」(JFS、2006)をめざす三島市が環境教育に力を入れるのは、過去の水をめぐる市民運動がいまも息づき、今後にもつながる様々な環境保全の動きの礎になっていることの表れである。三島市のマイバッグ運動の成功は、このような水をめぐる住民意識が起点になっているのである。

## 結論

以上のように、三島市のマイバッグ運動好調の背景には、一見無関係に思える富士山からの湧水とそれにまつわる住民の営みが深く関連していることがわかる。マイバッグ運動を支える水に対する住民の環境意識は、環境教育を推進する三島市において、現在のみならず未来の環境保護活動にもつながっていくと考えられる。

## 注

### 注

- 1) 飯島（2000）は「被害を未然に防止するタイプの運動である点で画期的であった」とも指摘している。このことは以前に起こった東レなどによる湧水問題の被害が出た後の経験を契機として未来志向型の環境意識につながっていると考えられる。

### 引用文献

飯島伸子（2000）『環境問題の社会史』有斐閣。

イオン（2015）「買物袋持参運動」（<https://www.aeon.info/environment/environment/mybag.html>）（2016年3月23日閲覧）。

北川隆吉・石川淳志（1964）「工業化の進展と地域社会の変化——静岡県三島市調査報告」『社会労働研究』11(3),pp.41-83.

小林一弥（2003）「石油コンビナート進出阻止の住民運動——一九六四年の三島市を中心にみる」『史観』148,pp.127-128.

ジャパン・フォー・サステナビリティ/JFS（2006）「みんなで築く環境先進都市——静岡県三島市」（[http://www.japanfs.org/ja/news/archives/news\\_id027351.html](http://www.japanfs.org/ja/news/archives/news_id027351.html)）（2015年11月18日閲覧）。

三島市（2006）「三島の水の歴史と、昔盛んだった水に関係ある産業について」（[http://www.city.mishima.shizuoka.jp/mishima\\_info/kodomo/yusui/mizufaq003.html](http://www.city.mishima.shizuoka.jp/mishima_info/kodomo/yusui/mizufaq003.html)）（2015年11月18日閲覧）。

三島市（2015）「レジ袋の再利用やマイバッグ持参を推進しています」（<https://www.city.mishima.shizuoka.jp/ipn005220.html>）（2015年11月18日閲覧）

読売新聞（1964）6月28日付朝刊「三島進出を断念 富士石油、市に申し入れ」

## 参考文献